クモ類小博物館の設立を望む

岡崎常太郎

世界の文明國の中で，おそらくわが國くらい博物館のすくない國はあるまい。ことに自然科學に關したものは，上野の科學博物館を除けば，外には一つも無いと言つてもよい位であろう。もつともこれは少し言いすぎで，東京市外には平山博物館があり，また近ごろシャクジイ（石神井）に蟬類博物館ができ，またギフ（岐阜）に名和昆蟲博物館があつて，いずれも民間の經營ではあるが科學のために，なみだぐましいほどの努力をしている點において，敬服に堪えないものがある。しかしかような博物館を利用する人は案外すくない。これは誠にイカン千萬と言わねばならぬが，かゝる有様であるのは，そもそもいかなる理由があるためであろうか。國民性の然らしむる所であるとも言えるであろうが，私は教育の結果がその大原因をなしていると思う。學問と言えば，本を讀むこと，文字を讀むこと，それ以外には無いように思い，それをさせる事を教育の全部であるかのように思つていたのが，これまでのわが國の教育であつたのである。直接實物について學ばせようとしないのが，わが國のこれまでの教育法であつたのである。それゆえ，さような教育を受けて來たものが，實物を見ようとしないのは當然のことである。自然博物館のわが國に發達しないのも當然と言わねばならぬ。

學問には，書物さえ讀めばそれでよいものもあつて，昔の學問はほとんどそれのみであつたようであるが，今の學問はとうていそれのみではダメである。ダメであるばかりでなく，書物を讀むのが學問でなくて，實際の物を研究するのが，眞の學問であることを，さとらねばならぬ時代になつている。またそれでなければ，これからの學問は決して發達するものではなく，かつこの考に基

ずいた教育でなければ，國家の發展に役立つものにはならないのである。この意味において，直接に實物に接して，實物から學ぶクセをつけることは，國家將來のために極めて大切な事であつて，これを努める事は，何よりもまず重要であると言はねばならぬ。

小學校の兒童を見るに，蟲を追いまわす事にキョウミを持たないものは無く從つて昆蟲博物館の必要なことは今さら言うまでもないことであると思うが，これと共に，私はクモ類博物館を設ける必要が大いにあると思う。クモと昆蟲とは密接な關係をもつていると言う點のみを以ても，博物館を設ける理由があると思うが，クモは昆蟲と同じく，分布も廣く，習性もおもしろくて，實物を通して自然界を知るのに最もよい材料である。クモの研究は大いに奬勵すべきであり，從つて博物館もドシドシ建設すべきである。

しかしながら，今直ちに理想的な大博物館を各地に建設することは，とうてい望み得べきではない。また現在においては，それほどにしなくてもよい。然らばどうすればよいかと言うに，最も經費のかゝらぬ方法で，各所に多數設けることを工夫すればよい。それについての最もカンタンでしかも最も行われやすい方法を，東京市について述べて見よう。

まず小學校をはじめ各中等學校の理科室を總動員して，ことごとくクモ類博物館にするのである。博物館と言つても，實は博物室と言つた方がよいかも知れないが，アルコール漬にしたクモ標本管を收める室を設ける。

採集は兒童に命じて，學校の中，家庭乃至公園などでやらせればよい。決して採集のために遠方に出かけるには及ばない。採集地，採集の方法，標本の作り方等すべて實に簡單である。名前の分らないのは東亞クモ學會がひきうけてつけてやればよい。しかし全市の學校を相手にしては，數が多くてとてもやりきれないから，一區づつ趣味をもつた先生に講習をして指導した上，その區の中心學校に，區内の種類を全部集めた標本箱を備えて，同定の便に供する。又上野の科學博物館と連絡して，同館に市内全部の種類を集めて，何時でも見ら

れるようにしておくのである。この方法で二三年もやれば東京市内のクモは，おそらく全部集めることができるであろう。そうすると東京におけるクモの郷土博物館の總モトジメが科學博物館で，その外に全市に700以上の小博物館が一時に出來ることになる。表題に小博物館と言つたのはこのためであるが，日本にある自然科學の博物館が，片手の指を折るほどもない時にあたつて，たとえ小なりといえども一時に700もの博物館が出來るとは，實に愉快なことではあるまいか。但し私は，人間の建てた博物館はどこまでも，建て物でありその中に列べたアルコール浸の標本は，どこまでも死物であるから，さようなものを眞の博物館と考えることは贊成できない。眞の博物館は建て物の外であり命を持つている生き物であると考えたい。その考のもとに，以上の小博物館を活用したいものである。(カナ遣は發音式による)　　　　(昭和14—3—15)

碧　譚　集　か　ら

併し人間が人間である限り，自己の主張の容れられるを喜び，容れられざるを怒ることは已むを得ない事ではあらうが，よく考へて見れば，眞僞正否と云ふ事實はあるが，事實には眞も僞もなく正も否もない筈である。眞なのが事實で正なのが事實である。事實でないものを事實とし，全般的でないものを全般的であるとし，明白でないものを明白でありとする所に眞僞正否が生ずるのである。事物を有るが儘に觀て，有るがまゝに記載すれば，觀られた限りに於て記載された限りに於て，眞であり正である。これを外にして確固動かし難いものが他にあるであらうか。これを外にして學徒は何を求む可きであるか。併し此の有りの儘なる姿を觀ることは，徹底した自己批判の立場に於てのみ爲され得る。事實を事實として把握するには，把握の能力が要る。自己の根源に沈潛しなければならない。學者が自己批判を怠つてはならない根本義は一に玆にある。自然を自然と觀じて自然の中に自己を沒却せしめるとき，始めて有りの儘なる姿が現露する。觀るものなくして觀るのである。